

第 5 回 裾野市の教育のあり方検討委員会 記録

※ 18時30分開会

※ 20時00分開会を目処

<p>学校教育課長</p>	<p>定刻となりました。本日は、お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。私が、本日の司会進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>はじめに、開会のあいさつを教育総務課長よりお願ひします。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>ただいまから「第5回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を開会いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>次に、教育長より挨拶をお願ひします。</p>
<p>教育長</p>	<p>本日は、今までの総括をしていただきたいと思います。</p> <p>プロジェクト会議という会議を教育委員会内に組織しており、その報告もします。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>次に、委員長より挨拶をお願ひします。</p>
<p>委員長</p>	<p>これからの教育を考えていく上で大事なところを、今まで話し合ってきました。今日は、プロジェクト会議の先生方の意見を聞きながら、今までの議事とのすり合わせをしていきたいと思っています。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>次に、協議事項に入らせていただきます。</p> <p>ここからは、委員長に議事進行をお願ひします。</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは、議事を進めていきたいと思っています。</p> <p>本日は、資料にあるとおり3つの事項につきまして協議を進めていきたいと思っています。</p> <p>はじめに、「令和5年度裾野市の教育のあり方検討委員会報告書」について事務局より説明をお願ひします。</p>
<p>教育監</p>	<div data-bbox="470 1787 1375 1886" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>令和5年度裾野市の教育のあり方検討委員会報告書の2～3について説明</p> </div> <p>2（1）の経緯のところに挙げられている課題を解決することで、裾野市として目指す教育に迫ることができると考えている。3までの部分に</p>

	<p>ついて、ご意見をいただきたい。2～3までについてご意見をいただきたいと思います。</p>
委員長	<p>報告書の内容について、ご意見をいただきたい。 2「設置の経緯」について、補足があれば伝えてほしい。</p>
委員	<p>学校再編という、分散していたものを集めるというイメージを持っている。コミュニティ・スクールという、その地域と運営を共にしているというイメージがあるが、教育の集中と地域での学校運営を共存、両立できるかということについて、説明があればうかがいたい。</p>
教育長	<p>地域が子供たちの成長にとって非常に大事であるということ、まず確認したい。また、地域でなければ教えられないものもあるということ、理解したうえで、学校統合すると本当にコミュニティ自体がなくなってしまうのかという疑問を追求したかったという思いがある。コミュニティをつくるということと学校統合するということは、必ずしも矛盾しないのではないかと思っている。子供たちには、地域性というか裾野市を大事にするという気持ちを育てることを大切にしたい。地域を大事にしながら、新しい学校づくりができないだろうかということ、議論したかった。</p>
委員	<p>今後の課題の1つと考えてよいか。</p>
教育長	<p>学校統合すると、地域と離れてしまうのか、コミュニティが壊れてしまうのか、を議論し追求していかなければならないという意識がある。</p>
委員長	<p>統合されたそれぞれの地域のことを学んで、学校教育に生かしていけないかと議論したかった。また来年度以降、話し合っていきたい。</p>
委員	<p>「特別な支援の必要な子に対して、市支援員が配置されている。」と書かれているが、十分な配置とはいえない。学校の工夫も必要だが、強みと言えるほどかと考えると疑問がある。</p>
委員長	<p>現在配置されているが、強みと言われるとどうかという部分があるということ。統合された学校で十分な人の配置ができるようになるのか、をここで議論できるかどうかは分からないが検討する必要がある。</p>
委員	<p>市支援員の配置は単独で配置していると考えてよいか。</p>

学校教育課長	国の教員の配置基準とは別で、市単独の配置をしている。
委員長	この報告書は、誰に向けての報告書か？
教育監	定例教育委員会で報告する。
委員	強みについて、上から2つ目「助け合い協力して物事を行う雰囲気がある。」とあるが、根拠をどのように示すのか。
委員長	第2回の際に、委員から報告があった事項がその根拠になると思う。
委員	地域の祭りが開催に向けて、現在話し合いを進めている。 しかし、現在、なかなか学校が話し合いにのってこない。運営協議会でいろいろな話をして協力しているが、地域のことに学校が乗ってきてくれないというのが現実。学校の先生からの声掛けを子供たちにしてほしい。学校のことには、地域が協力している。学校とのつながりがなくなってしまうのではないかと考えている。
委員長	学校と地域を結びつけるコーディネーターはいるか？
委員	いる。
委員	学校は、いろいろなボランティアを地域にお願いさせてもらっていて、有難いと思っている。そして、逆に地域からのお願いを受け止める学校の在り方が問われていると思う。
委員	学校からは引率するための対価がないので、呼びかけができないという説明だった。一方通行になっている。
委員長	引率は、必ずしなければならないものなのか。学校がやるという時は学校に責任があるので引率するだろうが、地域がというのはどうか。
委員	活動により、様子を見に行ったりできるようであればと声掛けをしている。
委員	実際に動いてくれるのは、主に教頭先生。例えば、用水祭りの仮装行列は、先生方が忙しくて来られなくても、地域で子供たちを見ることができている。道路を使用する許可も地域でとると言っているが、それでも協力が得られない。

委員	以前は、子どもたちに呼びかけて紹介し、職員は指導でなくても見守っていた。地域のことを知る良い機会となるので、学校も協力していくことは大切であると考えている。
委員長	コーディネーターは、先生が交代しても続くようにという意味で置かれていると思う。コーディネーターの機能を強化する必要がある。
委員	<p>学校を挟む必要があるかどうかを考えたい。学校を経由することで、学校は保護者との関係で責任を取らざるを得ない。保護者と地域が直に関係性を持ち、地域が責任を持つという形でやるというのはどうか。</p> <p>教員は、決して地域とともに学びの機会を提供することに否定的であるとは言えないと考えている。問題の背景が変わってきていることを考えなければいけない。</p> <p>昔は、人が余っている状況だったが、人手が足りないという状況を前提で考える必要がある。教員も人手が足りなく、なんとかしのいでいるという状況だと思う。学校に通常業務以外の仕事を負わせない形の実現を模索する必要がある。</p>
委員長	逆から見ると、学校が地域に頼れなくなる。そうなるとよくないので、関係というか落としどころを考えないといけない。
委員	今あるものをどのように分担するかという考えが必要だと思う。ともに育てていくということは必要。子供たちを学校だけでなく、みんなで育てていく。それをどう分担するかという考え方が必要ではないか。
教育長	現在ある課題については、またどこかで解決していってもらおうというようにしていったほしい。
委員長	(3) 委員会の目的について。学校教育に限らないと考えて良いか。
教育監	良い。小さく文字で書いてある部分は説明書きである。
委員	「施設や設備」に費やしてきた支出を「人づくり」のための支出というように書かれていて、これはすごくよい方向性であると考えているし、教育のあり方を考えていくという意味でもこの方針は継続してほしいと考えているが、この話の根拠は？
教育監	市長の発言より「床から人へ」という発言を詳しく伝えている。

委員長	「3 検討委員会の開催」について、4点が課題として考えられるということで議論してきた。これで十分かどうか、もっと大事な話があったということであれば、教えてほしい。まず、第1回委員会についてどうか。
委員	子供たちのコミュニケーション力をどうしたらよいかというところはよいと思うが、前半は一部の事象になっていないか。小規模の学校で過ごした生徒は、大きな集団になじめないという報告があるとあるが、一部の報告ではないか。
委員長	コミュニケーションの議論について、あの時の議論はもっと膨らみがあったと感じる。
委員	コミュニケーション能力の意味合いが複雑になってきている。という議論をした覚えがある。いろいろな技術が進んできている中で、コミュニケーションはいろいろな形がありえて、多様であるという意味合いが抜けていると思う。
委員長	この内容だとどこにでもあるような内容のように受け取れる。きれいにまとめすぎてしまうと、裾野市の教育のあり方として話し合ったものにならなくなってしまうので、この場ならではの部分を出してもらえたらよいと思う。
教育監	もう一度、議事録を読み返してまとめる。
委員長	第2回は、インクルーシブの話をしたと思う。世間一般の特別支援とは全然違うというところを入れてもらいたい。 第3回の地域に向けてのところはどうか。
副委員長	学校と地域が寄り添っていくという仕組みについて、コロナ前のうまくいっていた頃の仕組みを繋いでいかないといけないと思う。それを伝え合っていくことで、学校と地域がきちんと寄り添うような仕組みをつくっていくことが大切だと思う。
委員長	委員の発言のように新しい仕組みを作っていけないといけない。
委員	地域との関係を悪くしたいと考えている人はいないと思う。 もともとは同じ高さの中でやっていたが、学校や家庭の当たり前が変わ

委員	<p>ってきている。3年ぶり、4年ぶりにやろうとなっても、前の通りにはできないという感覚がある。伝え方とか対話をして、当たり前の高さを合わせていくということをしていかなければいけない。</p> <p>これからのコミュニティ・スクールの今後の課題かもしれない。</p>
委員	<p>基本は一緒に作り上げていくということが必要。地域と学校と話し合っ て、もう一度作り上げていく。自分たちも地区の活動の中で同じようにはいかず、落としどころを探すようになってきている。</p>
委員長	<p>地域とともに子供を育てていくという考え方はよいが、その仕組みをどのようにしていくかということが問題。めざしているものについての議論は変わらないが、実現させていくための仕組みをやり直していくということが必要であると思う。</p>
委員	<p>連携が大切というのはその通りだが、今までと同じようにはいかない。今置かれている現状を見つめ直し、再構築していくというニュアンスが必要。「学校で育てやすいもの、学校でない方が育てやすいもの」の表現が分かりづらいがどうか。</p>
委員長	<p>明治期はなんでも地域や家で学んでいたが、勉強だけは学校だった。今は学校でなくても勉強することはできて、逆に人間関係をつくったり、しつけをしたりといったことがうまくいっていない。人間関係をつくる ところを育てる力が地域で弱くなってきて、それをもうちょっと考えなければいけないというところ。 指摘があった部分は分かりにくい表現なので、推敲願う。</p>
委員	<p>小規模校出身の子は、大きな学校になじめないという部分があった。全員がというように受け取られかねない表現だと思うので、本来の趣旨をくみ取った表現にする必要があると思う。例えば、「小規模の学校で過ごした生徒は、大きな集団になじめないケースがある」という表現はどうか。</p> <p>また、コミュニケーション力を育てる手立てについて、具体的にしてもよいのではないかと思う。人と人のかかわりを持つことと多様な属性、多様な価値観を知るということが、コミュニケーション能力を養う ということで、非常に大切であると思う。いろいろな人と交わる、出会うことを学校の中でやることに価値があるということが、たぶん学校のあり方に関わってくると思う。表現としては、「コミュニケーション能力を育てるための手立てとして、地域社会や地域を超えた多様な属性や</p>

<p>委員長</p>	<p>年齢の人と多様な関わりを持ち」という内容になるのではないかと。 もう一度、議事録を確認し、特に他では議論されていないものを積極的に入れていただきたい。再度、報告書を委員に共有してほしい。 これからの裾野市のめざす教育について、先生方にプロジェクト会議という場で議論してもらっているのので、その報告をお願いしたい。</p>
<p>教育監</p>	<p>(0) 会議の柱として、 「これからの時代の学校づくりの具体の検討」、「次期裾野市教育振興基本計画策定のために必要な情報の収集」になる。 (1) 目指す教育像 (2) 目指す子供像 (3) 子供たちの付けたい力について、「ウェルビーイング」「エージェンシー」という視点を切り口に、議論した。子供たちに付けたい力として、主体性、創造性、多様性、コミュニケーション能力などが挙げられた。 具体について、4グループに分かれて「これらの力を身に付けるためには、具体的にどのような手立てが必要になるか」を議論した。 詳細について、プロジェクト会議委員長の庄司校長から説明がある。</p>
<p>プロジェクト会議委員長</p>	<p>あり方で話し合われたことを踏まえながら、学校で何ができるのかについて議論してきた。これからの時代の学校づくりの具体を検討していく必要があるという考えのもとに、会議を進めた。切り口としては、15年後どんな子供たちになってほしいかというところを議論した。そして、ウェルビーイング達成のために、どんな教育が必要なのかを話し合い、その中で「主体性」というところが随所に出てきた。また、コミュニケーションのことも必要だということで話が出された。 めざす子ども像や付けたい力を整理し、その上でめざす教育として人と人をつなぐ教育の推進が必要になるだろうという話になった。それをどのように具体化していくかというところで、モデルを整理するために4グループに分かれて学校でできることを提案した。ここまで議論を進めてきて、モデルをもっと詳細に作る必要があると感じている。プロジェクトチームの中では、より具体をまとめていくことを継続してやっていく必要があると感じているし、このような話を学校内でももっと話していく必要がある。 グループごとの具体的な提案について、副委員長が説明する。</p>
<p>プロジェクト会議副委員長</p>	<p>具体的な取り組みを話し合っていくということになったが、なかなか表出させることが難しかった。教育に体系的にどう入れ込むかという具体的なことを考えていたが、まずは概念的なことを共有しなければいけないという思いを持った。</p>

	<p>～具体的な取組（案）報告～</p> <p>A：夢に会う、夢を描く体験（体験を体系的に入れ込む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値観を合わせたり、共有したりした。 ・夢を描くことは特別な指導ではない。出た芽を大人が心して育てる。認める、価値づける。 <p>B：「総合的な学習の時間」の見直し（探究学習・地域とのつながり）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化、子供たちの現状の変化に合わせた見直しが必要。 ・調べて発表、キャリア教育＝職場体験で終わらない活動。 ・裾野市が目指す人づくりを意識しながら、目標を実現するにふさわしい探究課題が重要。 ・Zoomで互いの地域の良さを伝え合うことにより、探究活動が深まった。 ・職場体験→働く人の価値観に着目した活動を行う。 ・地域の大人と触れ合う活動をしていく。 <p>C：子供たちが考え、動かしていく体験（特別活動・行事・集会等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが「自己選択・自己決定」する場の創出が自立に繋がる。 ・「決めたいかどうか」から子供たちに問う必要がある。 <p>D：主体的に学ぶ（学び方を選択できる）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・凹凸の凸を伸ばすことが学びの楽しさに繋がる。 ・主体的になることから、主体である子供に委ねる。
委員長	<p>こういったことも考えてもらえるといいなということがあったら、お話ししたい。</p>
委員	<p>裾野市の強みが三つ出されている。結論についても、この三つとリンクした結論が望ましいと考える。</p>
委員	<p>聞いていて、とても大事な議論ばかりだと感じた。これがどこに入ってくるか。これが入ると、独自路線というか、完成品としてすごくいいと思った。</p>
部長	<p>あり方検討委員会とプロジェクト会議が、同時進行で行われてきた。これこそ裾野市の強みと言えるのではないかと感じている。</p>
委員	<p>内容がすばらしいし、熱量を感じた。大人が主体的に動いて議論されて</p>

	<p>いることに大きな価値があり、子供にとってもものすごい学習につながる。プロジェクトの内容を、あり方検討の報告書と無理に整合性をとっていくことにさほど意味はなく、現場のプロジェクトチームが迅速に立ち上がり、このタイミングで提案があったということは、アジャイル（俊敏）な進め方ができていることの証左である。未来の学び方そのものだし、裾野の強みの一つではないか。それも含めて、本編の報告書に掲載するのがよいのではないか。</p>
副委員長	<p>探究学習は、調べ学習とは違う。子供の内発的なものから出た探究なのかが大切であると思う。</p>
委員長	<p>総合的な学習は、探究学習だけでなく良い。いろいろな可能性を追究し、さらに議論を進めていただきたい。 最後に（３）今後検討すべき事項についてどうか。</p>
委員	<p>地域と生徒を結びつけることは、とても大切である。コーディネーターの活動をもっと増やして行ってほしい。</p>
委員	<p>現場で指導する中で、目先のことに陥りがちなところがある。プロジェクト会議では、グローバルに将来を見据えて教育していく大切さを話し合ってくれた。教育の目的について、改めて見つめ直したい。 コロナ禍で、様々なことが止まった。いろいろなものを組み立てていくために、話し合いを積み上げていきたい。慌てないでやっていくことが大切。</p>
委員	<p>教育現場以外の様々な立場の話が聞けた。私たち教員は、視野が狭いところで考えていると思った。例えば特別支援のこととか、教育現場でないところの方の意見がとても新鮮で、未来を考えていくときにすごく生きる感じがした。</p>
委員	<p>あり方とプロジェクト会議のすり合わせができると良い。</p>
委員	<p>いろいろな視点で議論できた。学校、地域、家庭、保護者の方とも対話をしていくことが大切。この場も副委員長以外は男性なので、今後の議論について女性からの視点を入れ込んでいくと、子育て中の方の話など家庭に思いをはせた議論になっていくのではないか。</p>
委員	<p>裾野の中でも声の大小があり、声の小さい方の考えにも面白い部分があるかもしれない。学習コンテンツ自体も大事だが、それ以上に「隠れた</p>

	<p>カリキュラム」として学習されるのは、周囲の大人のあり方だと思う。子供に多様な人との対話的な学びを求める報告書をまとめている会議なので、我々自身も同じように学ぶことは非常に重要であると思う。大人同士が議論していく中で、大人たち自身がブラッシュアップしていく。地域内でもなかなか声が聞かれていない多様な人たちがおり、そういった人たちとの対話の中にこそ、未来の学びを創る上での示唆がたくさんあるのではないかな。</p>
副委員長	<p>裾野らしさについて、ずっと気になっていた。 プロジェクト会議の資料を見て、先生方から学校現場の実際の様子を聞いて、これが原点になる。女性やいろいろな校種の保護者からの意見も大事ではないかと思っている。</p>
委員長	<p>いろいろな議論をして種がまかれたと思うので、ここからさらに新しい議論が出てくることを期待している。 進行を学校教育課長にお返しする。</p>
学校教育課長	<p>ありがとうございました。 それでは、次に 「その他」 となります。何かございますか。</p>
教育監	<p>2点、今回出されたご意見は一旦事務局で引き取らせていただき、ご意見をまとめて修正したものを皆さんにメールや紙媒体でお送りさせていただきます。それについてご意見をいただいた後は、委員長と事務局に一任ください。</p> <p>もう1点、前回の委員会議事録の確認と市ホームページへの議事録の公開についてご意見を伺いたいと思います。 事前に委員の皆さまには、前回の議事録（要点筆記）を送付させていただきました。ご一読いただき、何か修正する点や変更点はございませんか。無ければ、前回の委員会議事録を確認いただいたということで、こちらで保管をさせていただきます。また、当議事録を市ホームページに公開することを予定しております。若干、発言者の表記に留意した上で、公開したいと考えておりますが、宜しいでしょうか。</p> <p>それでは、準備が整い次第、当議事録を市ホームページにて公開させていただきます。</p>
学校教育課長	<p>他に、何かございますか。 無ければ、閉会に移らせていただきます。</p>

教育部長	<p>閉会のあいさつを教育部長、お願いします。</p> <p>本年度5回の委員会を開催し、これまでの協議を踏まえ、報告書のめどが立ちました。委員の皆様にはお忙しいところご協力をいただき、ありがとうございました。また、次年度もご協力を賜りたいと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>以上をもちまして、「第5回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。</p>
------	--